

学校選択制で弊害、小中一貫教育も問題多発：教育改革はいつたい何だったのか？

「教育改革」は父母・住民の真摯に検証を！

「学校の序列化を招く、学校に競争主義を導入するもの、学校―地域の協働関係を壊す、等々の様々な事態が生じた。それはある面で未だ続いている」―「教育改革」の推進委員会責任者だった元大学教授は選択制の弊害をこのべました。今年1月発売の「検証 教育改革」（発行＝品川区教育政策研究会 税別2400円）のなかの文章です。「検証：」は、品川区の「教育改革」の検証を目的に区教委も参加した組織で執筆、発行したものです。しかし、ここには教育改革の成果も未来もみえません。

「教育改革」責任者が選択制の弊害を認めた

学校選択制は、若月教育

長が平成12年度から導入。学校現場に大混乱をもたらした。町会役員さんから「地域と子どもたちの関係を壊す」と批判が集中しました。



若月教育長らが相次いで品川の教育改革を取り上げた本を出版しました。写真はその一部。

ところが、「教育改革」責任者だった元教授は、選択制の弊害を認めたうえで「学校選択制を一方的に指弾するだけで問題が解決するようには思えないし、反面で、これまでの学校選択制のメリットだけを強調することで活路が開かれるようにも思えない」

「問題を根本的に考え直す」とのべています。

教育改革推進委員会は、選択制や小中一貫教育など「教育改革」を進める諸課題の検討、原案策定にあたってきました。その責任者が、自らつくり出した混乱に手をこまねいているのです。

選択制はやっぱ統廃合の手段だった？

「検証」が学校統廃合計画に触れていないことも問題です。昨年11月、若月教育長との諮問機関が、荏原西部地区と荏原東地区で小学校の、大井地区で中学校の統廃合を答申をしました。

30人学級の実現を

「教育改革」のもう一つの柱が小中一貫教育。ところが、「検証」では「小・中を一貫させるためにはなすべき検証の作業が多く、さらに一層、長期の実践活動を積

問題だらけなのに小中一貫校を次々に建設

「教育改革」のもう一つの柱が小中一貫教育。ところが、「検証」では「小・中を一貫させるためにはなすべき検証の作業が多く、さらに一層、長期の実践活動を積

われているのです。



み重ね、実証的な資料を収集する必要がある」と評価は先送りです。それでも、施設一体型と分離型について分析していますが、その文章にも驚きです。

教師、父母・地域住民の参加で検証を

施設一体型では、運動会で時間がかかりすぎ、順番が少ない、裏方の仕事为上級生に偏るなど、一年生から九年生まで全学年一斉の活動で問題が多いと指摘。一方、分離型は、小中間の交流が容易でない、小学校の教師が中学校の専門的内容を教えるに、学校の独自性を出しながら一貫教育として足並みをそろえるのは矛盾、など問題点が列挙されています。どれも予想できたもの

日本共産党は、教育の専門家と現場の教師、父母、PTA、地域住民など直接、間接に子どもたちの教育にかかわる方々の参加で検証すること。学区毎の公聴会の開催を提案しています。